

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	柿生学園	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名 成田 哲夫 ・住所 川崎市高津区久地3-13-1	評価者	障害計画課長
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	生活介護・施設入所（定員60名） 契約者数 60名（平成31年3月31日現在） 短期入所（定員 4名） 延利用者数 750名 日中一時（1日 5名） 延利用者数 44名																																										
収支実績	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">収入</th> <th colspan="2">支出</th> <th>収支差額</th> </tr> <tr> <td>福祉事業活動</td> <td>521,296千円</td> <td>福祉事業活動</td> <td>496,894千円</td> <td>22,270千円</td> </tr> <tr> <td>給付費</td> <td>358,604千円</td> <td>人件費</td> <td>337,480千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>川崎市単独扶助</td> <td>94,996千円</td> <td>事務費</td> <td>94,052千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料</td> <td>31,581千円</td> <td>事業費</td> <td>65,362千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>0千円</td> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>0千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>36,115千円</td> <td>施設整備等支出</td> <td>2,132千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>521,296千円</td> <td>合計</td> <td>499,026千円</td> <td></td> </tr> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>	収入		支出		収支差額	福祉事業活動	521,296千円	福祉事業活動	496,894千円	22,270千円	給付費	358,604千円	人件費	337,480千円		川崎市単独扶助	94,996千円	事務費	94,052千円		指定管理委託料	31,581千円	事業費	65,362千円		拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	0千円		その他	36,115千円	施設整備等支出	2,132千円		合計	521,296千円	合計	499,026千円			
収入		支出		収支差額																																							
福祉事業活動	521,296千円	福祉事業活動	496,894千円	22,270千円																																							
給付費	358,604千円	人件費	337,480千円																																								
川崎市単独扶助	94,996千円	事務費	94,052千円																																								
指定管理委託料	31,581千円	事業費	65,362千円																																								
拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	0千円																																								
その他	36,115千円	施設整備等支出	2,132千円																																								
合計	521,296千円	合計	499,026千円																																								
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の支援区分が高く高齢化の中、利用者一人ひとりの意思と人格を尊重し、様々な場面で利用者の意思決定が出来るよう支援した。今年度より学識者、家族、後見人等を構成員とした虐待防止委員会を設置し、利用者への権利侵害の防止に努めた。 ・大規模改修工事の中で、支援プログラムの質を落とさないよう様々な工夫をして、慣れない生活に不安を感じる利用者の対応に徹した。 																																										

3. 評価（評価段階：5～1,標準：3,加点割合：5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
（評価の理由） ・利用者の日常生活をはじめ、年々増えている外出支援など利用者自身の力を最大限発揮できるような支援に取り組み、利用者及び利用者家族とも信頼関係を築いている。 ・個別支援計画策定月を誕生月に変更し、従来の利用者一斉見直し時に比べ複数の職種による計画作成に向けた検討が可能となった。それにより、きめ細やかな支援の提供につなげることができた。 ・自主製品がふるさと納税の返礼品に選ばれ、完売したため追加注文も入った。多くの人に学園の取組を知ってもらいきっかけとなり、利用者のやりがいにもつながった。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	4	4
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
（評価の理由） ・支出については、予算とほぼ同額の決算額となった。 ・収入については、予算額を上回り、黒字となった。 ・会計基準に基づいた適正な会計処理が出来ている。					

サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の意思を尊重し障害特性等のニーズに基づいた個別支援計画を作成・モニタリングすることによって、根拠に基づいた支援を提供して利用者のQOLの向上に努めている。また、15名ずつ4ユニットの小集団を基本とし、家庭的な雰囲気を持った穏やかな生活を重視している。 ・「虐待防止チェックシート」を利用して、権利擁護委員会が取りまとめた結果を基に、支援の検証や評価を行い、課題や改善点を明確化した。その課題等は職員へ情報共有され、環境整備や支援方法の改善に繋げている。 ・利用者の個々の要望に合わせた適切なサービスの提供として、地域の方に出張家庭教師をお願いした。利用者の満足感、精神面の安定につながっているため、今後も積極的に利用者の意思を尊重していく。 					
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市、神奈川県の強度行動障害者支援者研修へファシリテーターとして講師派遣し、市内全体の強度行動障害者への支援強化と支援者養成を行った。工事中で慣れない場所での生活となるため、夜勤職員を1名追加することで、不安定な利用者対応や職員の不安解消になり、事故防止をはかった。 ・障害特性に関する専門的知識に関する研修に加え、利用者の加齢・重度化に合わせ、様々な角度から専門性向上をはかることを目的とした内部研修を実施した。 ・「事故報告」「ヒヤリハット」については、データベース化しており、事故等の多い発生時間・場所等を抽出し改善を行い、全体的な事故の減少を行った。 ・社会福祉事業団では30年8月に「不祥事検証報告書」をまとめ、法人事務局に事業統括参事を配置して、施設長をはじめ職員への研修を行いコンプライアンスの徹底を図っている。また、施設としては、施設長から各職員に対しコンプライアンスの重要性について改めて認識するよう周知徹底を図った。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種保守・点検について、業務委託により適切に実施されている。 ・施設・設備の老朽化に対しては、トイレと居間・居室の改修工事や居住棟のLED化を実施し、生活環境をバリアフリー化することで安全性と衛生面を改善することができた。 				

4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A→E,標準: C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- ・消防局からの依頼で自主製品がふるさと納税の返礼品として使用されることになり、多くの方に学園の取組を伝えることのできる機会となり、利用者の作業のやりがいとなり、プログラムの質の向上につながっている。
- ・ニーズの変化に即応し利用者主体の質の高い支援プログラムを提供するために、PTや看護師等の専門職と連携して支援を行っている。
- ・法人が近隣に設置しているグループホームとの連携により地域移行した利用者の暮らしを支える役割を担っており、緊急時をはじめとして、柿生学園があることで安心感を与えている。
- ・川崎市、神奈川県での「強度行動障害支援者研修」へファシリテーターとして講師派遣することで、市内全体の強度行動障害者への支援強化と支援者養成事業への貢献に努めている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、個々の利用者のニーズに応じた支援を行うとともに、施設の適正な運営管理に努めること。